第7編 横壁勝沼Ⅱ遺跡

第1章 既往の調査

これまで横壁勝沼Ⅱ遺跡では、今回の町営土地改良事業に伴う発掘調査を行うに当たり発掘調査範囲を確定するための試掘調査が行われたのみであり、本調査は今回が最初の発掘調査事例である。平成 29 年 10 月に行われた試掘調査の結果時期不明の陥し穴が検出され、本調査が行われることとなった。

第2章 調査の経過

横壁勝沼Ⅱ遺跡の調査は、平成30年5月16日から同年8月30日まで実施した。

5月16日~17日、試掘トレンチ精査を行う。5月21日・23日、発掘調査地点の地権者と周辺住民に挨拶に伺う。5月28日、器材庫プレハブを搬入し、安全看板・安全柵の設置、器材の搬入を行う。

6月7日、調査範囲の確認・設定、試掘トレンチ精査を行う。調査区外に排土置場を確保できないため、調査区を北部・中央部・南部に3分割し、反転して北部から調査を行うこととした。6月13日、北部の表土掘削が終了し、遺構検出を開始する。

7月13日、北部の空中写真撮影を行う。7月19日、北部の調査が終了した。7月23日、北部の埋め戻しを開始し、26日には中央部の表土掘削を開始する。

8月3日、中央部の表土掘削が終了し、遺構検出・掘削を開始する。8月17日、中央部の空中写真撮影を 行う。8月22日に中央部の調査が終了し、南部の表土掘削を開始する。8月24日、南部表土掘削が終了する。 8月27日には南部遺構検出・掘削を開始する。8月30日、南部の空中写真撮影を実施し、南部の調査が終 了した。発掘器材を搬出し、本遺跡の発掘調査は終了した。

第3章 基本層序

今回の発掘調査の基本層序は、A地点(北部南壁)・B地点(中央部南壁)・C地点(南部南西壁)の3箇所で確認した。基本層序は以下の通りである。

第 Π 層 暗 褐 色 土 : 粘性はあり、しまりはやや弱い。砂礫 (ϕ 0.2 \sim 7.0cm) を少量含む。

第Ⅲ層 黒 褐 色 土 : 粘性は弱く、しまりのある部分もあれば、やや弱い部分もある。 $YPk(\phi)$ 0.1 \sim 3.0cm)を少量含み、ロームブロック(ϕ 0.5 \sim 3.0cm)を微量含む。

第IV層 暗 褐 色 土 : 粘性弱く、しまりはやや弱い。 $YPk(\phi 0.1 \sim 1.5cm)$ を少量含む。

第V層 黒 褐 色 土 : 粘性は弱く、しまりのある部分もあれば、弱い部分もある。 YPk(ϕ 0.2 \sim 1.0

cm)を微量含む。

第 W_{1} ,層 にぶい黄褐色土 : ローム漸移層である。粘性は弱く、しまりはやや弱い。 $\mathrm{YPk}(\phi \ 0.1 \sim 1.5 \mathrm{cm})$ ・

砂礫(ϕ 0.2 \sim 2.5cm)を微量含む。試掘調査 60 \sim 62 号トレンチの 10 層

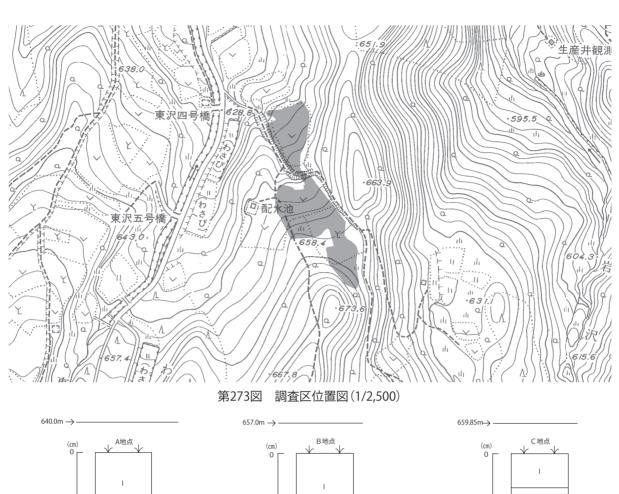
を細分したものである。

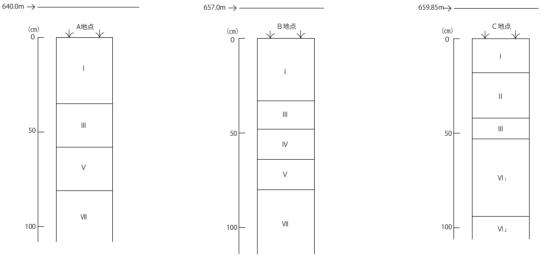
第 W_2 層 にぶい黄褐色土 : ローム漸移層である。粘性は弱く、しまりはある。 W_2 (ϕ 0.2 \sim 1.0cm)・

砂礫 (φ 0.2 ~ 1.5cm) を微量含む。試掘調査 60 ~ 62 号トレンチの 10 層

を細分したものである。

量含む。



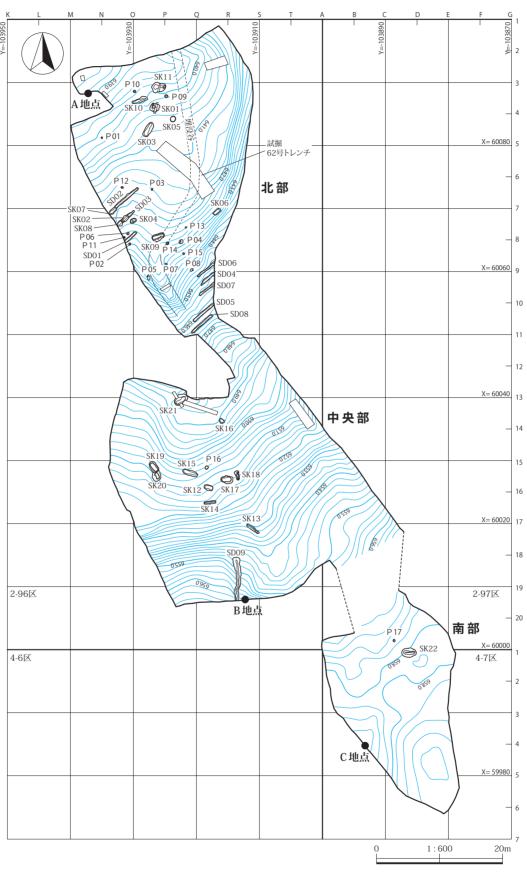


第274図 基本土層柱状図(1/20)

第4章 検出された遺構と遺物

第1節 遺跡の概要

横壁勝沼 II 遺跡は、群馬県吾妻郡長野原町大字横壁字勝沼に所在する平安時代の遺構を主体とする遺跡である。吾妻川の支流である深沢と白岩沢に挟まれた吾妻川右岸の中位段丘面の南方の、丸岩山の北西面の山脚地帯に位置する。吾妻川支流の東沢と白岩沢に挟まれた馬の背状の尾根の西面に立地する。調査区の南北方向に谷地形が走っており、すぐ西側を東沢が流れる。調査区東側には周囲の山からの礫混じりの崩落土が厚く堆積している。南から北へ向かって下る傾斜地で、標高は638.6 m~658.8 mである。現況は畑地である。



第275図 調査区全体図(1/600)

今回の発掘調査は横壁勝沼Ⅱ遺跡の第1次調査にあたる。調査範囲は遺跡の北東約2分の1にあたり、大字 横壁字勝沼877他に所在する。便宜上調査区を北部・中央部・南部の3つに分けて調査を行なったが、中央 部と南部の境界を道路が横断している。この道を下った東側の低地が横壁勝沼Ⅲ遺跡である。

今回の発掘調査で確認された遺構は、平安時代の陥し穴12基、時期不明の土坑10基、ピット17基、溝 9条である。遺構は北部を中心に分布しており、南部にはほとんど検出されなかった。出土遺物の種類は、縄 文土器、弥生土器、土師器、鉄製品、陶磁器、石器で、その数量はテンバコで 0.5 箱分であった。

第2節 平安時代の遺構と遺物

(1) 陥し穴

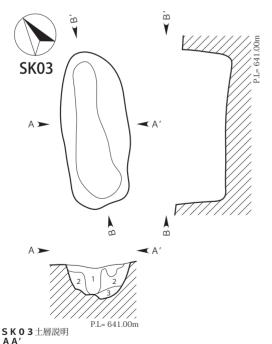
上面形が楕円形、下面形が長方形を呈する陥し穴は平安時代に帰属すると考えられる。

SK03 (第276 図/PL38)

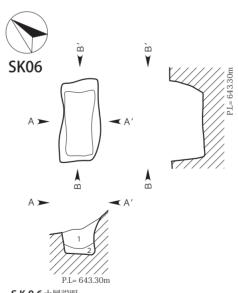
位置 2-96区O-4 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 上層は黒褐色土、下層はにぶい黄 褐色土が基調で、人為堆積を示す。 **平面形と規模** 上面形が楕円形、下面形が不整長方形を呈する。規模は 長軸 245cm、短軸 105cm、深さ 50cm。 **主軸方位** N-26°-E **壁面** 外傾して立ち上がる。 ね平坦。 遺物 なし。 備考 なし。

SK06 (第276 図/PL39)

位置 $2-96 ext{ <math> EQ - 7$ **重複関係** なし。 **遺存状態** 上部は削平されていると考えられる。 褐色土が基調で、自然堆積を示す。 平面形と規模 長方形を呈する。規模は長軸 127cm、短軸 60cm、深さ **主軸方位** $N-50^{\circ}-E$ **壁面** ほぼ垂直に立ち上がる。 **底面** 概ね平坦。 $50 \, \mathrm{cm}_{\odot}$ 考なし。



- 1. 黒 褐 色 土 層 : 粘性弱い。しまり弱い。砂礫(φ0.3~3.5cm)含む。YPk
- (φ0.2~0.5cm) 微量含む。
 2. にぶい黄褐色粘土層: 粘性弱い。しまりやや弱い。ロームブロック(φ0.5~3.0cm)含む。砂礫(φ0.3~3.5cm)微量含む。
- 3. 黒 褐 色 粘 土 層:粘性弱い。しまりやや弱い。ロームブロック(φ0.5~ 3.0cm)微量含む。

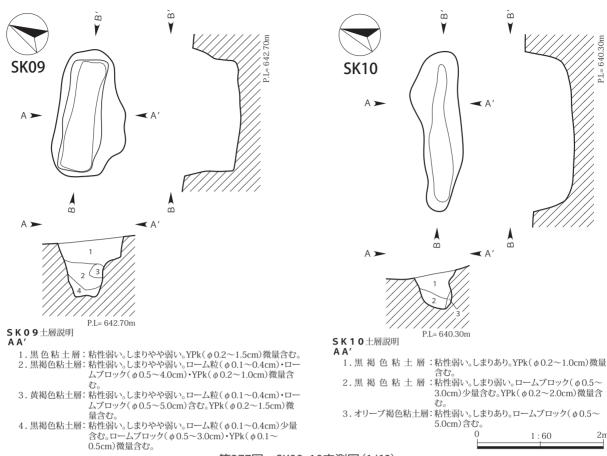


SKO6土層説明

- 1. 黒褐色粘土層:粘性弱い。しまりなし。砂礫(φ0.2~2.0cm)微量
- 2. 黒褐色粘土層:粘性強い。しまりやや弱い。ロームブロック(φ0.5 ~1.5cm) 微量含む。



第276図 SK03·06実測図(1/60)



第277図 SK09·10実測図(1/60)

SK09 (第277 図/PL38)

位置 2-96区O-7 重複関係 なし。 遺存状態 良好。 覆土 黒色〜黒褐色土が基調で、人為堆積を示す。 平面形と規模 上面形が不整楕円形、下面形が隅丸長方形を呈する。規模は長軸 205㎝、短軸 106㎝、深さ 90㎝。 主軸方位 N-71°-E 壁面 南壁は階段状に、他は外傾して立ち上がる。 底面 概ね平坦。 遺物 縄文土器の破片 3 点と、古墳時代と考えられる土師器 1 点が出土した。うち縄文土器 2 点を図示したが、遺構に伴うものではないと判断したため遺構外出土遺物に掲載した。 備考 なし。

SK10 (第 277 図)

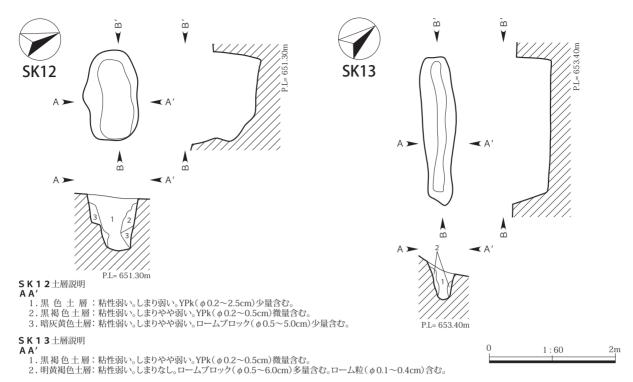
位置 2-96 区 O-3 重複関係 なし。 遺存状態 良好。 覆土 黒褐色土が基調で、自然堆積を示す。 平面形と規模 上面形が不整長楕円形、下面形が不整細長方形を呈する。規模は長軸 252cm、短軸 62 cm、深さ 57cm。 主軸方位 N-74°-E 壁面 下位はほぼ垂直に立ち上がり、上位は外傾して立ち上がる。 底面 概ね平坦。 遺物 なし。 備考 細長い平面形状から、平安時代末~中世に帰属すると考えられる。

SK12 (第278 図/PL39)

位置 2-96 区 Q-15 重複関係 なし。 遺存状態 良好。 覆土 黒色土が基調で、自然堆積を示す。 平面形と規模 上面形が不整楕円形、下面形が隅丸長方形を呈する。規模は長軸 142cm、短軸 84cm、深さ83cm。 主軸方位 N-71°-W 壁面 南西壁は階段状に、他は外傾して立ち上がる。 底面 概ね平坦。 遺物 なし。 備考 なし。

SK13 (第 278 図/P L 39)

位置 $2-96 ext{ <math> ER - 17 }$ 重複関係 なし。 遺存状態 上部は削平されていると考えられる。 **覆土**



第278図 SK12·13実測図(1/60)

黒褐色土が基調で、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 細長方形を呈する。規模は長軸 232cm、短軸 37cm、深さ 45cm。 **主軸方位** N - 53°-W **壁面** 外傾して立ち上がる。 **底面** 概ね平坦。 **遺物** なし。 **備考** 細長い平面形状から、平安時代末~中世に帰属すると考えられる。

SK14 (第 279 図/PL 39)

位置 2−96 区 Q − 16 **重複関係** なし。 **遺存状態** 上部は削平されていると考えられる。 **覆土** 黒色土が基調で、人為堆積を示す。 **平面形と規模** 細長方形を呈する。規模は長軸 188cm、短軸 42cm、深さ 37cm。 **主軸方位** N−84°−E **壁面** 外傾して立ち上がる。 **底面** やや凹凸がある。 **遺物** なし。 **備考** 細長い平面形状から、平安時代末~中世に帰属すると考えられる。

SK15 (第279 図/PL39)

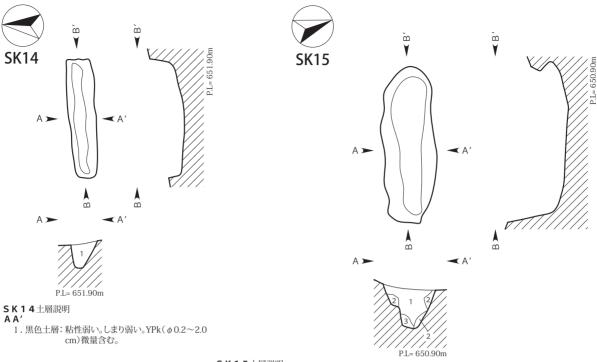
位置 2-96 区 P-15 重複関係 なし。 遺存状態 良好。 覆土 黒色土が基調で、自然堆積を示す。 平面形と規模 上面形が不整長楕円形、下面形が不整細隅丸長方形を呈する。規模は長軸 244cm、短軸 82cm、深さ 60cm。 主軸方位 N-72°-W 壁面 北東壁は外傾して立ち上がり、南東側はオーバーハングする。 底面 概ね平坦。 遺物 なし。 備考 細長い平面形状から、平安時代末~中世に帰属すると考えられる。

SK17 (第 279 図/P L 40)

位置 2-96区Q-15 重複関係 なし。 遺存状態 良好。 覆土 黒色土が基調で、自然堆積を示す。 平面形と規模 上面形が不整楕円形、下面形が不整隅丸長方形を呈する。規模は長軸 190cm、短軸 100cm、 深さ 105cm。 主軸方位 N-84°-E 壁面 下位は貼壁が認められる。下位はほぼ垂直に、上位は大き く外傾して立ち上がる。 底面 概ね平坦。 遺物 なし。 備考 なし。

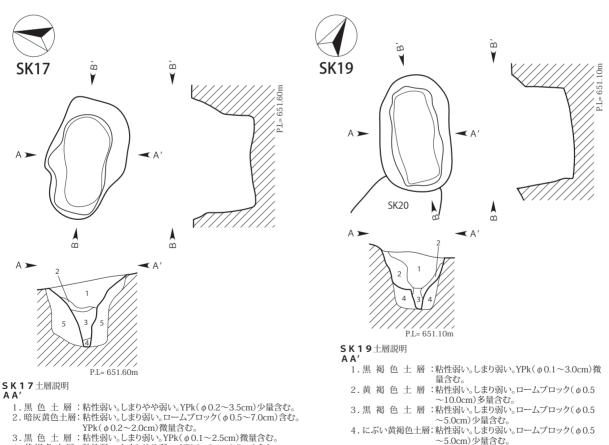
SK19 (第 279 図/P L 40)

位置 2-96 区 0-15 **重複関係** SK20 と重複し、本遺構の方が新しい。 **遺存状態** 良好。 **覆土**



SK15土層説明 AA'

- A・1 . 黒 色 土 層:粘性弱い。しまりなし。ロームブロック(φ0.5~4.0cm)・YPk(φ0.1~0.3cm)微量含む。
 2 . 黄褐色土層:粘性弱い。しまりなし。ロームブロック(φ0.5~10.0cm)多量含む。
 3 . 黒褐色土層:粘性弱い。しまりなし。ロームブロック(φ0.5~4.0cm)含む。



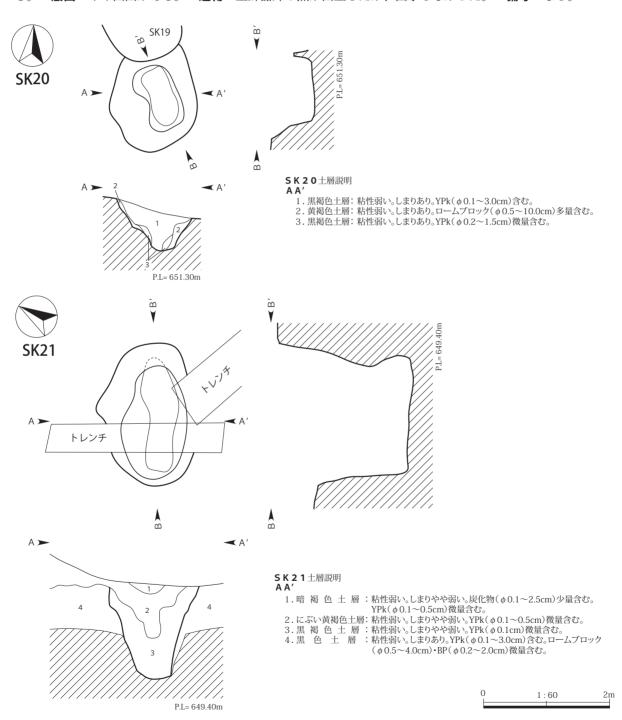
S K 1 7 土層説明 A A′

- 1. 黒 色 土 層: 粘性弱い。しまりやや弱い。YPk(φ 0.2~3.5cm) 少量含む。
 2. 暗灰黄色土層: 粘性弱い。しまり弱い。ロームブロック(φ 0.5~7.0cm) 含む。
 YPk(φ 0.2~2.0cm) 微量含む。
 3. 黒 色 土 層: 粘性弱い。しまり弱い。YPk(φ 0.1~2.5cm) 微量含む。
 4. 黄褐色土層: 粘性弱い。しまりやや弱い。YPk(φ 0.1~0.5cm) 含む。ロームブロック(φ 0.5~5.0cm) 微量含む。
 5. 褐色粘土層: 粘性あり。しまりやや弱い。YPk(φ 0.1~3.0cm) 微量含む。

~5.0cm) 少量含む。 1:60 黒褐色土が基調で、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 上面形が楕円形、下面形が隅丸長方形を呈する。規模 は長軸 186cm、短軸 110cm、深さ 87cm。 **主軸方位** N - 40° - W **壁面** 下位は貼壁が認められる。下位 はほぼ垂直に、上位は貼壁の段差を経て立ち上がる。 **底面** 概ね平坦。 **遺物** なし。 **備考** なし。

SK20 (第280 図/P L40)

位置 2-96区O-15 **重複関係** SK19と重複し、本遺構の方が古い。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 黒褐色土が基調で、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 上面形が楕円形、下面形が不整隅丸長方形を呈する。規模は長軸 138cm以上、短軸 129cm、深さ 60cm。 **主軸方位** N-27°-W **壁面** 大きく外傾して立ち上がる。 **底面** やや凹凸がある。 **遺物** 土師器片 1 点が出土したが、図示しなかった。 **備考** なし。



第280図 SK20·21実測図(1/60)

SK21 (第280図)

位置 2-96区P-12・13 **重複関係** なし。 **遺存状態** 概ね良好だが、調査区外の北東方向に延びている。 **覆土** 上層はにぶい黄褐色土、下層は黒褐色土が基調で、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 楕円形を呈する。規模は長軸 225㎝、短軸 162㎝、深さ 150㎝。 **主軸方位** N-58°-E **壁面** 外傾して立ち上がる。 **底面** 概ね平坦。 **遺物** なし。 **備考** 遺構はさらに北東方向に延びていたが、調査区境界の壁面が迫っていたため、安全面を考慮し途中で掘削を中止した。

第3節 時期不明の遺構と遺物

(1) 十坑

形態に特徴がなく出土遺物がないことから帰属時期は不明である。

SK01 (第281 図)

位置 2−96 区 0−3 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 暗灰黄色土が基調で、人為堆積を示す。 **平面形と規模** 不整方形を呈する。規模は長軸 139㎝、短軸 137㎝、深さ 87㎝以上。 **主軸方位** N−75°−W **壁面** 外傾して立ち上がる。 **底面** 途中で掘削を中止したため不明。 **遺物** なし。 **備考** 遺構中央に巨礫が検出されたため、安全面を考慮し途中で掘削を中止した。

SK02 (第281 図)

位置 2-96 区N-7 **重複関係** SD03 と重複し、本遺構の方が古い。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 黒色土が基調で、人為堆積を示す。 **平面形と規模** 楕円形を呈する。規模は長軸 115cm、短軸 74cm、深さ 52cm。 **主軸方位** N-49°-E **壁面** 外傾して立ち上がる。 **底面** 凹凸がある。 **遺物** なし。 **備考** なし。

SK04 (第281図)

位置 2−96区O−7 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** オリーブ褐色〜暗灰黄色土が基調で、 人為堆積を示す。 **平面形と規模** 楕円形を呈する。規模は長軸 104cm、短軸 64cm、深さ 83cm。 **主軸方 位** N−58°−E **壁面** ほぼ垂直に立ち上がる。 **底面** 凹凸がある。 **遺物** なし。 **備考** なし。

SK05 (第281図)

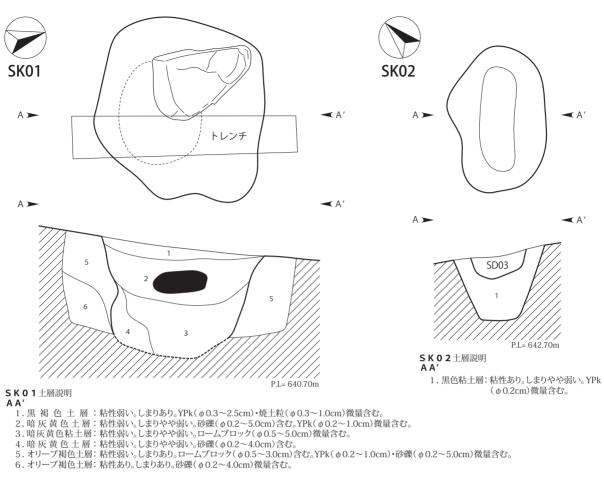
位置 2-96区P-4 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 黒褐色土が基調で、人為堆積を示す。 **平面形と規模** 円形を呈する。規模は長軸 93cm、短軸 82cm、深さ 11cm。 **主軸方位** N-29°-E **壁 面** 大きく外傾して立ち上がる。 **底面** 皿状を呈する。 **遺物** なし。 **備考** なし。

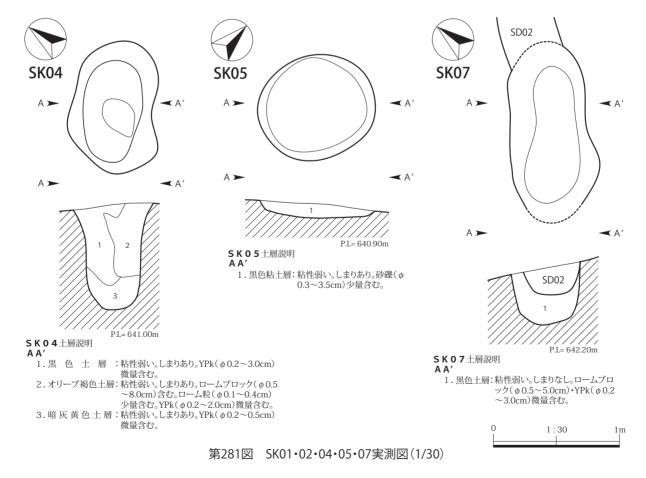
SK07 (第281 図)

位置 2−96区N−7 **重複関係** SD02と重複し、本遺構の方が古い。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 黒色土が基調で、人為堆積を示す。 **平面形と規模** 楕円形を呈する。規模は長軸推定 144cm、短軸 70cm、深さ 44cm。 **主軸方位** N−50°−E **壁面** ほぼ垂直に立ち上がる。 **底面** 概ね平坦。 **遺物** なし。 **備考** なし。

SK08 (第282図)

位置 2-96 区 N-7 **重複関係** SD03 と重複し、本遺構の方が古い。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 黒色土が基調で、人為堆積を示す。 **平面形と規模** 楕円形を呈する。規模は長軸推定 93cm、短軸 80cm、深さ 26cm。 **主軸方位** N-49°-E **壁面** 大きく外傾して立ち上がる。 **底面** 凹凸がある。 **遺物** なし。





備考 なし。

SK11 (第282図)

位置 2-96区0-3 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 暗褐色土が基調で、人為堆積を示す。 **平面形と規模** 不整楕円形を呈する。規模は長軸 215cm、短軸 166cm、深さ 79cm。 **主軸方位** N-90° **壁面** 外傾して立ち上がる。 **底面** 西に向かって下る。 **遺物** なし。 **備考** なし。

SK16 (第282 図)

位置 2-96区Q-13 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 黒褐色土が基調で、人為堆積を示す。 **平面形と規模** 不整楕円形を呈する。規模は長軸 90cm、短軸 63cm、深さ 33cm。 **主軸方位** N-47°-W **壁面** ほぼ垂直に立ち上がる。 **底面** 中央がやや窪む。 **遺物** 土師器片 1 点が出土したが、小破片のため図示しなかった。 **備考** なし。

SK18 (第283 図)

位置 2-96区R-15 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 黒褐色土が基調で、人為堆積を示す。 **平面形と規模** 不整楕円形を呈する。規模は長軸 150cm、短軸 72cm、深さ 42cm。 **主軸方位** N-11° -W **壁面** 外傾して立ち上がる。 **底面** 凹凸がある。 **遺物** なし。 **備考** なし。

SK22 (第283 図/PL40)

位置 4-7区C-1 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 黒褐色土が基調で、人為堆積を示す。 **平面形と規模** 楕円形を呈する。規模は長軸 228cm、短軸 138cm、深さ 53cm。 **主軸方位** N−89°−E **壁面** 緩やかな V 字状に立ち上がる。 **底面** 中央が V 字状に窪む。 **遺物** なし。 **備考** なし。

(2) 溝

SD01 (第284 図)

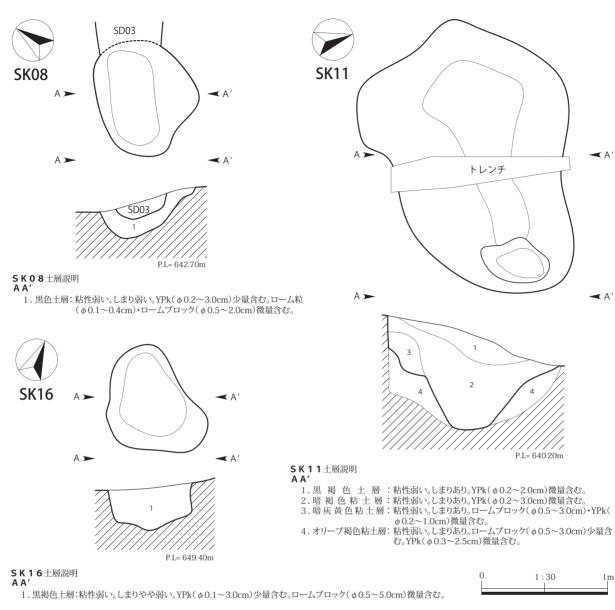
位置 2−96 区N・O−7・8 **重複関係** なし。 **遺存状態** 西側は調査区外となるが、概ね良好である。 **覆土** 黒色土が基調で、人為堆積を示す。 **規模** 長さ 2.4 m以上、幅 45cm、深さ 18cm。 **主軸方位** N − 48°−E **遺物** なし。 **備考** SD01 ~ SD03 は全て同じ方向でほぼ等間隔に並ぶことから、畑跡の施肥溝である可能性がある。出土遺物がないことから帰属時期は不明である。

SD02 (第284 図)

位置 2-96 区 $N\cdot O-6\cdot 7$ 重複関係 SKO7 と重複し、本遺構の方が新しい。 遺存状態 南西方向の調査区外にまで延びているが、概ね良好である。 **覆土** 黒色土が基調で、人為堆積を示す。 規模 長さ 5.3 m以上、幅 52cm、深さ 22cm。 主軸方位 N-48°-E 遺物 なし。 備考 $SDO1\sim SDO3$ は全て同じ方向でほぼ等間隔に並ぶことから、畑跡の施肥溝である可能性がある。出土遺物がないことから帰属時期は不明である。

SD03 (第284図)

位置 2−96 区 N−7 **重複関係** SKO2・08 と重複し、SKO8 より古く SKO2 より新しい。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 黒色土が基調で、人為堆積を示す。 **規模** 長さ 2.9 m以上、幅 52cm、深さ 17cm。 **主軸** 方位 N−49°−E **遺物** なし。 **備考** SDO1 ~ SDO3 は全て同じ方向でほぼ等間隔に並ぶことから、畑 跡の施肥溝である可能性がある。出土遺物がないことから帰属時期は不明である。



第282図 SK08・11・16実測図(1/30)

SD04 (第284 図)

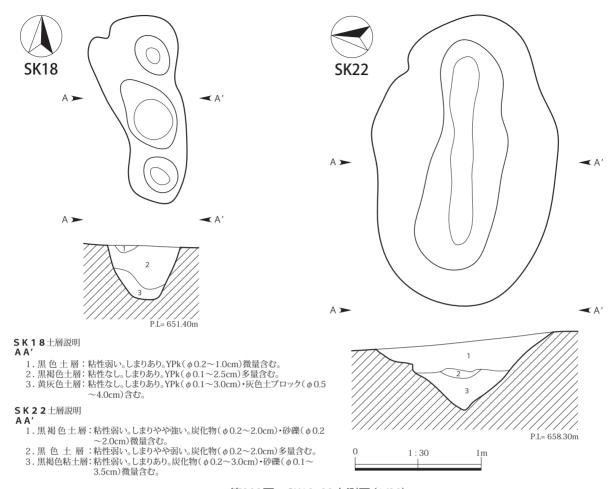
位置 2-96 区Q-9 重複関係 なし。 遺存状態 東方向の調査区外にまで延びているが、概ね良好である。 **覆土** 黒褐色土が基調で、人為堆積を示す。 規模 長さ 2.9 m以上、幅 54cm、深さ 14cm。 **主軸方位** N-50 $^{\circ}-E$ 遺物 なし。 備考 $SD04 \sim SD08$ は全て同じ方向でほぼ等間隔に並ぶことから、畑跡の施肥溝である可能性がある。出土遺物がないことから帰属時期は不明である。

SD05 (第284 図)

位置 2-96 区 P・Q-10 **重複関係** なし。 **遺存状態** 東方向の調査区外にまで延びているが、概ね良好である。 **覆土** 黒褐色土が基調で、人為堆積を示す。 **規模** 長さ 4.3 m以上、幅 50cm、深さ 7cm。 **主軸方位** N−50°−E **遺物** なし。 **備考** SD04 ~ SD08 は全て同じ方向でほぼ等間隔に並ぶことから、畑跡の施肥溝である可能性がある。出土遺物がないことから帰属時期は不明である。

SD06 (第284 図)

位置 2-96 $区 Q-8 \cdot 9$ 重複関係 なし。 遺存状態 東方向の調査区外にまで延びているが、概ね



第283図 SK18・22実測図(1/30)

良好である。 **覆土** 黒褐色土が基調で、人為堆積を示す。 **規模** 長さ 3.5 m以上、幅 54cm、深さ 10cm。 **主軸方位** N - 53°-E **遺物** なし。 **備考** SD04 ~ SD08 は全て同じ方向でほぼ等間隔に並ぶことから、畑跡の施肥溝である可能性がある。出土遺物がないことから帰属時期は不明である。

SD07 (第285 図)

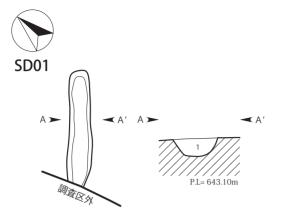
位置 2-96 区Q-9 重複関係 なし。 遺存状態 東方向の調査区外にまで延びているが、概ね良好である。 **覆土** 黒褐色土が基調で、人為堆積を示す。 規模 長さ 3 m以上、幅 62 cm、深さ 8 cm。 主軸方位 N-52°-E 遺物 なし。 備考 $SD04 \sim SD08$ は全て同じ方向でほぼ等間隔に並ぶことから、畑跡の施肥溝である可能性がある。出土遺物がないことから帰属時期は不明である。

SD08 (第285 図)

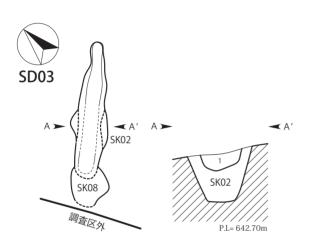
位置 2−96 区 P・Q−10 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 黒褐色土が基調で、人為堆積を示す。 **規模** 長さ 4.3 m以上、幅 50cm、深さ 19cm。 **主軸方位** N−49°−E **遺物** なし。 **備考** SD04 ~ SD08 は全て同じ方向でほぼ等間隔に並ぶことから、畑跡の施肥溝である可能性がある。出土遺物がないことから帰属時期は不明である。

SD09 (第285図)

位置 2-96 区 $R-18\cdot 19$ 重複関係 なし。 遺存状態 南方向の調査区外にまで延びているが、概 ね良好である。 **覆土** 黒褐色土が基調で、人為堆積を示す。 規模 長さ 6.9 m以上、幅 114 cm、深さ 7 cm。

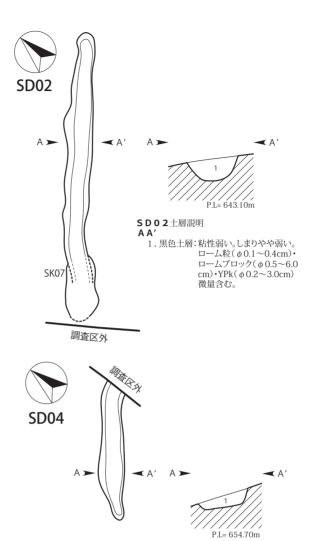


SD01 土層説明 **AA'** 1. 黒色土層: 粘性弱い。しまり弱い。ローム粒(φ0.1~0.4cm)・ロームブ ロック(φ0.5~2.0cm)・YPk(φ0.5~2.5cm)微量含む。

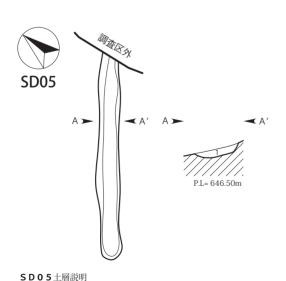


SD03土層説明

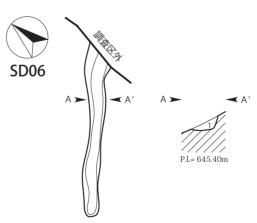
A A'1. 黒色土層: 粘性弱い。しまりやや弱い。YPk(φ0.1~3.0cm)少量含む。 ローム粒(φ0.1~0.4cm)・ロームプロック(φ3.0~10.0cm) 微量含む。



S D O 4 土層説明 A A' 1. 黒褐色土層: 粘性弱い。しまりあり。YPk(φ 0.2~1.5cm)含む。

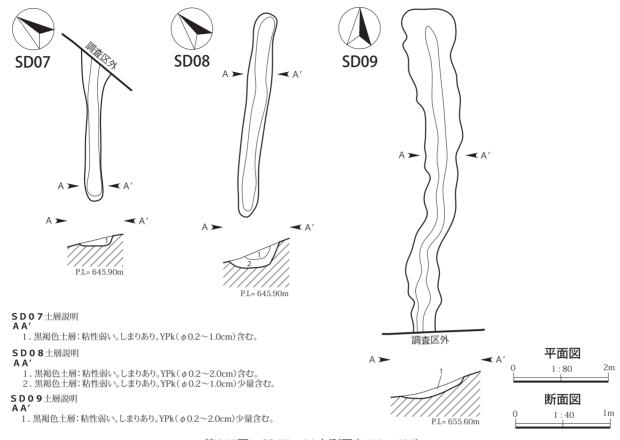


SD05 土層説明 **AA′** 1. 黒褐色土層: 粘性弱い。しまりあり。YPk(φ0.2~1.5cm)含む。



SD06土層説明 AA' 1. 黒褐色土層:粘性弱い。しまりあり。YPk (φ0.2~2.0cm)含む。 平面図 1:80 2m 断面図 1:40 1m

第284図 SD01~06実測図(1/40·1/80)



第285図 SD07~09実測図(1/40·1/80)

主軸方位 N-1 $^{\circ}-W$ 遺物 なし。 備考 地形の傾斜に沿って走行する自然流路の可能性がある。

(3) ピット (第40表)

今回の発掘調査では、ピットは 17 基確認された。 いずれも時期を特定することは困難であるため、全 て時期不明とした。建物の柱穴と考えられるものは 確認されなかった。全てのピットの平面形や規模な どの情報は、第 40 表に記載した。

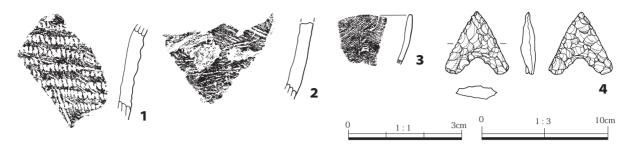
第40表 横壁勝沼||遺跡ピット観察表

遺構名	位置	平面形	規模(cm)			華土	備考	
	7位6		長軸長	短軸長	深さ	覆土	1佣名	
P01	2-96区M - 4	楕円形	27	20	10	В		
P02	2-96区N - 8	楕円形	36	30	22	Α		
P03	2-96区0-6	楕円形	34	24	12	В		
P04	2-96区P-8	楕円形	70	56	18	Α		
P05	2-96区0-9	楕円形	78	38	10	Α		
P06	2-96区N - 7	楕円形	41	30	14	Α		
P07	2-96区P-8	楕円形	34	20	22	Α		
P08	2-96区P-8	楕円形	49	31	36	В		
P09	2-96区P-3	円形	52	48	8	В		
P10	2-96区0-3	円形	48	42	12	В		
P11	2-96区N - 7	楕円形	38	20	34	Α		
P12	2-96区M - 6	楕円形	48	28	12	Α		
P13	2-96区P-7	円形	24	22	20	В		
P14	2-96区P-8	楕円形	50	37	44	В		
P15	2-96区P-8	円形	28	27	18	В		
P16	2-96区Q-15	長方形	53	44	12	В		
P17	2-97区C-20	楕円形	47	31	108	В		

※ A:黒色土 B:黒褐色土

第4節 遺構外出土遺物 (第286 図/第41表/PL40)

ここでは、調査区表土および確認面出土遺物、遺構から出土したが遺構に伴うものではないと判断されたものを掲載する。遺構外出土遺物は近現代の陶磁器の他、弥生土器や縄文時代の石鏃が出土している。土坑から出土した縄文土器 2 点と、表土から出土した弥生土器と石鏃を各 1 点図示した。



第286図 遺構外出土遺物実測図(1/1・1/3)

第5章 まとめ

今回発掘調査を行なった横壁勝沼 II 遺跡では、平安時代の陥し穴 12 基、時期不明の土坑 10 基、ピット 17 基、溝 9 条が確認された。南部には周囲の山からの崩落土が厚く堆積しており、土坑・ピットがそれぞれ 1 基 ずつ検出されたのみである。

本遺跡では住居は検出されなかったため、居住域ではなく狩猟地として利用されていたと考えられる。隣接する横壁勝沼 \square 遺跡では 10 世紀代と考えられる住居跡が検出されている。集落と狩猟域が分かれており、横壁勝沼 \square 遺跡に居住していた人々が当遺跡を狩猟地として利用していたのであろうか。陥し穴の主軸方向や配置には特に規則性は見られなかった。また、当地域においては気候条件から見て 1 つの陥し穴の存続期間は 1 年以内であり、再利用もされなかったと推定されている(石田 2008)。そうであるとすれば、本遺跡の狩猟地としての継続期間は長くても 10 年前後になるが、実際には同時期に複数の陥し穴が造営されたと考えられ、継続期間はもっと短かったと推定される。平安時代の住居跡に加えて多数の陥し穴を検出した近隣の上野 I・II遺跡との関連も併せて検討したい。

出土遺物は少なく、時期を特定できる遺物も出土しなかった。遺構からの出土遺物には縄文土器と土師器が多いが、縄文土器は周辺の遺物包含層からの流れ込みと考えられる。土師器も小破片ばかりで、時期を特定するには至らなかった。その他近現代のものと見られる釘がピットから出土している。遺構外の遺物では近世の陶磁器がほとんどであるが、石鏃や弥生土器の破片も出土している。弥生時代の遺構・遺物は今回報告する上野 $I \cdot II$ 遺跡でも検出されている。かつて長野原町ではあまり知られていなかった弥生時代の資料は近年の調査の進展に伴い増加しており、今後の調査によってさらに解明が進むであろう。

参考文献

石田真 2004 「群馬県北西部における古代の陥し穴の構築時期をめぐって――長野原町の事例を中心として――」

『研究紀要 22』(財)群埋文

石田真 2008 「群馬県北西部における古代の陥し穴の意義」『ぐんま史料研究 第25号』 群馬県立文書館

第41表 横壁勝沼 || 遺跡出土遺物観察表

遺構外出十遺物観察表

VZ-1177	шти	マルカ 中のハイカ							
挿図No.	図版No.	器種	法量(器高/口径/底径)(cm)	特徴(形態・手法等)	焼成	胎土・材質等	色調(外面/内面)	備考	
286- 1	40	縄文土器 ・深鉢	(7.5) /-/-	外面に絡条体による押圧縄文を施す。内面指頭圧痕。早期後半(子母口式)か。		繊維・長石・石英・ 赤褐色砂粒・ 白色砂粒	褐/にぶい黄褐	破片資料 (体部)	SK09
286- 2	40	縄文土器 ・深鉢	(5.9) /-/-	外面は貝殻条痕文か。内面指頭圧 痕。早期後半(鵜ケ島台式)。	良好	繊維・長石・石英・ 赤褐色砂粒・ 白色砂粒	にぶい黄褐/ にぶい黄橙	破片資料 (体部)	SK09
286- 3	40	弥生土器 ・壺か	(3.8) /-/-	外面に細密縄文による施文。単節 RLか。器厚は薄く締まる。内面指 頭圧痕。		石英・赤色砂粒	にぶい黄褐	破片資料(口縁部)	表土
286- 4	40	剥片石器類 ・石鏃	長 1.7 /幅 1.5 /厚 0.4	重量 0.6g。凹基。	_	黒曜石	_	完存。	表土